

第3章 まとめⅡ

1. 新しい貧困層の模様

OECD調査の結果・高齢者の貧困者が多いことがわかった。
とくに、問題となっているのが、

「母子世帯」

→働くところがなく、離婚率も上昇・・貧困者増加の危険性も...

「若者」→失業者の上昇・・所得がない

「単身高齢者」→家族間の支援の弱まる

子供と離れて暮らす老夫婦も1人になった場合、貧困に陥る危険性が...

2. 低所得労働者

最賃以下の賃金しか受けていない

パートタイム労働者が増加。→特に女性が多い

女性の平均賃金が低いから

3. 富裕層の変容

現代の富裕層は誰か→高額所得者、高資産保有者

- ・富裕層となる経営者が従事する産業の種類の変化
- ・経営者の種類の変化
- ・企業の模様

4. 地域格差の実態

失業率 2.3%(1957)～4.7%(2000)

- ・有効求人倍率、県民所得はともに低下。
 - ・構造改革→公共事業を削減する政策を採りました。
 - ・格差が拡大(悪い面ばかりではない)
- * 政府が何らかの有効な策を採っていないのが問題なのだ。

5. 奪われる機会の平等

- ・機会の平等の原則→全員参加の原則・非差別の原則
- ・自分が望む教育に親の所得が関係→学費の負担が大きい
- ・日本の経済が豊になり、男女の差別がなくなった
- ・→しかし、所得格差が拡大しているため進学させる余裕のない家庭もいる。

女性の昇進の問題では、女性が有利に働けるように、「積極的差別削減政策」といった政策もある。